

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                  |    |              |
|----------------|------------------|----|--------------|
| ○事業所名          | ことばの教室そらまめキッズ東餅田 |    |              |
| ○保護者評価実施期間     | 令和6年11月11日       |    | ～ 令和6年11月30日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)           | 38 | (回答者数) 29    |
| ○従業者評価実施期間     | 令和6年11月11日       |    | ～ 令和6年11月30日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)           | 11 | (回答者数) 11    |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 令和6年12月28日       |    |              |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み(※)だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等  |
|---|--|---|---|
| 1 | ・保護者やお子さま一人ひとりのニーズや困りごとへのアセスメントを実施している。    | ・定期的に事業所内相談を実施<br>・連絡帳の活用<br>・公式LINEによる情報共有や相談の受付<br>・毎月の評価シートによるフィードバック<br>・保護者による送迎を活用し、送迎場面でのフィードバック             | ・家族支援を頻回に実施できているご家族とそうでないご家族と差があるため、全体の実施回数ではなく平均回数をあげ、どのご家族への支援も充実できるように取り組んでいく。 |
| 2 | ・スタッフ間でのコミュニケーションが活発。                      | ・多職種スタッフが在籍するため、それぞれの強みを生かしたアセスメントや計画、会議の実施<br>・職種や勤務形態にとらわれずに、意見が出せる環境作り<br>・スタッフ間でGood & Newを共有し、強みにフォーカスを当てた関係作り | ・弱みへのサポート体制の強化ができるように取り組む。<br>・自己開示の実施に取り組む。<br>・面談を通じた意識調査を実施していく。               |
| 3 | ・研修制度の充実による成果にこだわった支援の一貫性。                 | ・太田ステージやPECS®, ABA、構造化など入社後、業務時間内に研修時間を設け学べる環境<br>・マニュアルを軸にした支援の実施  | ・基礎的な部分は研修で学べるが、応用的な部分や内容が難しくなると、事業所内でも理解の差がうまれているため、研修後の継続した育成に取り組む。             |

|   | 事業所の弱み(※)だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等   | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|---|---|
| 1 | ・他事業所や他福祉施設との連携                            | ・利用児童の支援に関しては担当者会議などを通して連携が図られている。一方で、他の事業所への見学や介入実績が少ないため、そらまめキッズでできることがそらまめキッズでしかできないことになりうる可能性がある。 | ・関係機関連携の積極的実施<br>・グループ会議などフォーマルな会議で積極的にコミュニケーションを取る   |
| 2 | ・新規利用児の受け入れが難しい                            | ・制限数以上に問い合わせがある<br>・児発卒業後、放デイでの受け入れが難しい   | ・個別支援計画作成時に卒業基準も想定して作成をする<br>・事業所の新規開所の検討   |
| 3 | ・少人数での活動になるので、集団活動は大型イベント時等に限られてしまう。       | ・個別支援へのニーズが高いため、イベントなどの実施が少ない。  | ・集団活動確保のため、年数回大型イベントを開催し、集団の場を設けている。頻度自体は少ないので、今後もう少し回数を増やせるよう検討していく。<br>・定期的に家族参加型のイベントを行っていく。 |